＜福島県教育長賞＞

社会を支える税金

西郷村立西郷第二中学校　３年　河合　涼花

みなさんは、税金と聞いてどんなイメージを持つでしょうか。私はこれまで、買い物をする時にかかる「消費税」くらいしか身近で感じていませんでした。お小遣いの中から余分にお金を払うため、正直「少し損しているな」と思っていました。しかし、学校の授業で「税金」について学び、その役割を知ることで、私の考えは大きく変わりました。

そもそも税金とは、私達が安全に暮らしていくために、みんなで少しずつ出し合うものです。税金にはたくさんの種類があります。よく知られている「消費税」の他にも、「所得税」や「自動車税」などがあります。このように集められた税金は、警察や消防の活動、道路の整備、そして学校の教科書代や施設の維持費など、みんなが使う公共のサービスのために使われています。

この仕組みについて学んだとき、私は自分の身の回りにある「当たり前」の経験を考えてみました。それは、毎年の新学期に学校で新しい教科書が配られるときのことです。もらった教科書の裏表紙を見ると、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめて、税金によって無償で支配されています」と書かれていることに気がつきました。もし税金がなければ、たくさんの教科書をすべて自分のお金で買わなければなりません。私達が不自由なく勉強できているのは、社会全体が税金で支えてくれているおかげなのだと、身に染みて感じました。

私は、税金は決して「取られて損をするもの」ではなく、お互

いを助け合い、未来をつくるための大切な仕組みなのだと思うようになりました。普段、私達が当たり前のように歩いている安全な道や学校、公共の施設などの環境も、多くの人達が納めてくれた税金によってつくられ、守られているのです。

　税金は、私達の生活、社会を維持するためになくてはならない大切な存在です。私はまだ中学生なため、消費税くらいしか納めていませんが、それでも、私も社会を構成するメンバーの１人です。将来、大人になって働くようになったら、今度は自分が社会を支える番として、しっかり税金を納めたいと思います。そして、自分が支払った税金がどのように使われているのかということにもっと関心を持ち、私達の社会を支える一員になりたいです。